

ふじすえ

藤末 みずきさん (23歳 腹赤)

第46回 尚美流全日本きもの着付選手権大会
振袖の部 優勝



大会審査の様子

【写真】優勝カップと指導者に贈られる記念の盾を
手にとるみずきさんと祖母の敦子さん



祖母と揃んだ着付け日本一

着付けの先生は祖母 2人で揃んだ念願の日本一

7月21日から22日にかけて、滋賀県で開催された『尚美流 全日本きもの着付選手権全国大会 振袖の部』で、藤末みずきさんが見事優勝を果たした。

この大会は、全国各地で予選を通じた尚美流きもの着付教室の生徒が出場するもので、尚美流は着付けの数ある流派のひとつ。みずきさんは、祖母の敦子さんが先生を務める教室で、幼い頃からきものに慣れ親しんできた。本格的に教わるようになったのは高校1年生の頃から。2度目の全国大会出場では準優勝を果たしたが、その後は上位入賞を逃し、先生でもある敦子さんに優勝をプレゼントすることを目標に練習に励んできた。

大会では、制限時間内にきものを着付け、姿勢や動作、帯の形やしわなど、様々な項目で審査される。準決勝、決勝に進むにつれて時間も短くなることから、難易度も増していく。「いかに正確に、やり直さなくていいに着られるかの練習に取り組んできました」と話すみずきさん。練習が思うようにいかず、苦勞した時期もあったが、敦子さんの指導のもと楽しく練習に取り

り組んできたという。努力を重ねてきた結果、ことして5度目の挑戦となった全国大会で見事優勝を敦子さんにプレゼントすることができた。「先生をはじめ、支えてくれた多くの人に感謝したいです。次は別の種目での優勝を狙いたいです」と力強く目標を語る。敦子さんは「優勝してくれてうれしいです。真面目に一生懸命に取り組んできた成果だと思います。これからも継続して頑張ってほしい」とエールを贈った。

日本の伝統・文化に多くの人に 慣れ親しんでほしい

「きものは日本の美しい伝統のひとつ。趣味としてもすぐ始められるので、多くの人に慣れ親しんでほしいです」と話すみずきさんは、着付けのほかにも、日本舞踊も教わっている。文化祭などの町の行事などで披露することもあるという。また、小中学生を対象にピアノも教えている。

幅広く活躍するみずきさんの、今後の活躍にも期待がかかる。